

マキバノハナゾノ 飯館花壇

大久保金一さん(小宮)がつくり続けている夢の花園「マキバノハナゾノ」には、スイセン、カタクリ、ミズバショウと、季節の移ろいに合わせてさまざまな花が咲いています。大久保さんが、震災後に、学生と交流しながらつくった「飯館花壇」には、これから見頃を迎える100株のバラも植えられています(バラの写真は去年のもの)。



農地を肥やす花畑

農地の地力回復に役立つ景観作物として、農業復興組合などが行っている花の種まき。今年もカラフルな花々が、春の田畑を彩りました。菜の花(上)、クリムゾンクローバー(左上)、ポピーなど、それぞれの花の色に染まった農地は大変美しく、車を停めて写真を撮る人の姿も、あちらこちらで見受けられました。

オープンガーデン飯館

「オープンガーデン飯館(松原光年会長/小宮)」は、自宅の庭を開放したり、幹線道路沿いや公共施設に花を植えたり、花をテーマに活動をしています。「花の好きな人の集まりです」と松原会長。「オープンガーデンは初めてという人もいますから、去年は先進地での研修や、寄せ植えの勉強会なども行いました」。また、今年の春先には、会員の庭の見学方法などを記したガイドマップ「ひみつのはなぞの」も制作しました。

5月24日には、村の新品種「いいたてオリンピア」を飯館中学校で植栽しました。植栽には全校生徒が協力。作業を終えた生徒の一人は「自分の植えたものには愛着がわきます。見守っていきたいです」と笑顔を見せました。

(上)飯館中学校で中学生と「いいたてオリンピア」の植栽を行いました (下)庭を訪れた会員を案内する松原会長(左端)



あいの沢をアジサイの名所に



5月下旬、飯館村老人クラブ連合会(菅野敬会長/関根・松塚)の役員の方々が、村民の森「あいの沢」で、アジサイの苗の植栽を行いました。このアジサイは、ふるさと納税などを積み立てた基金「陽はまた昇る基金」を活用して購入したもので、老人クラブの皆さんは、造園業者と一緒に、作業に協力しました。3日間にわたる作業で植栽されたのは、実に90種類、約

2000株のアジサイの苗です。作業に参加した松浦勝廣さん(上飯樋)は、「きれいな花を咲かせてほしいね。今後、こういう活動に参加して、次世代のために、きれいな村づくりを進めたい」と話していました。順調に生育すれば、90種類のアジサイが咲きそろった名所になりそうです。花の咲く日が待ち遠しいですね。